



委 員 会 報 告

医療事故防止委員会

○設置目的

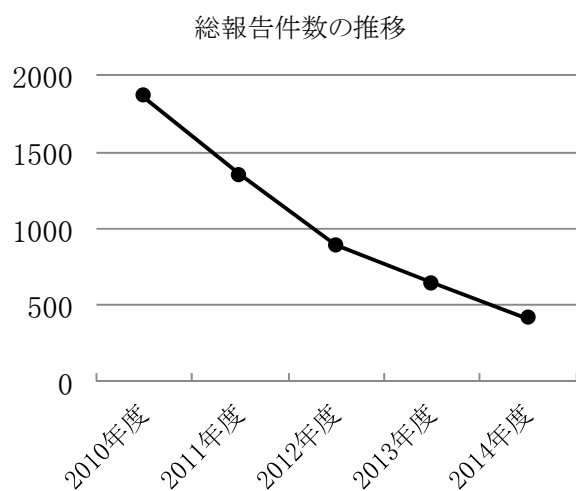
- 1) 医療事故防止委員会の開催
- 2) 報告されたインシデントについての原因分析、対策の検討、職員への周知
- 3) 医療安全に関する職員研修・指導
- 4) その他、医療安全に関する事項の協議

○委員構成

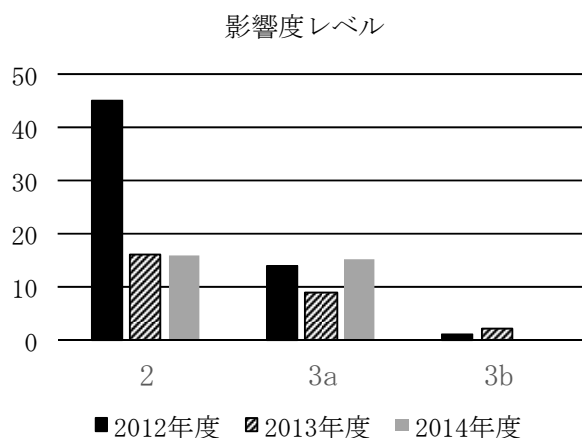
委員長（病院長）、副委員長 2 名、看護部長、事務長、各部署長等

○2014 年度の活動報告

委員会では毎月、委員会の開催日前日までに報告されたインシデント事例 1 か月分の中から重要事例を採り上げ、部署内での対応・対策を確認、協議し、対策が不十分であれば、あらためてその改善を依頼し、結果を翌月の委員会にて確認した。また、複数部署にかかわる事例では、対応・対策について協議・調整した。



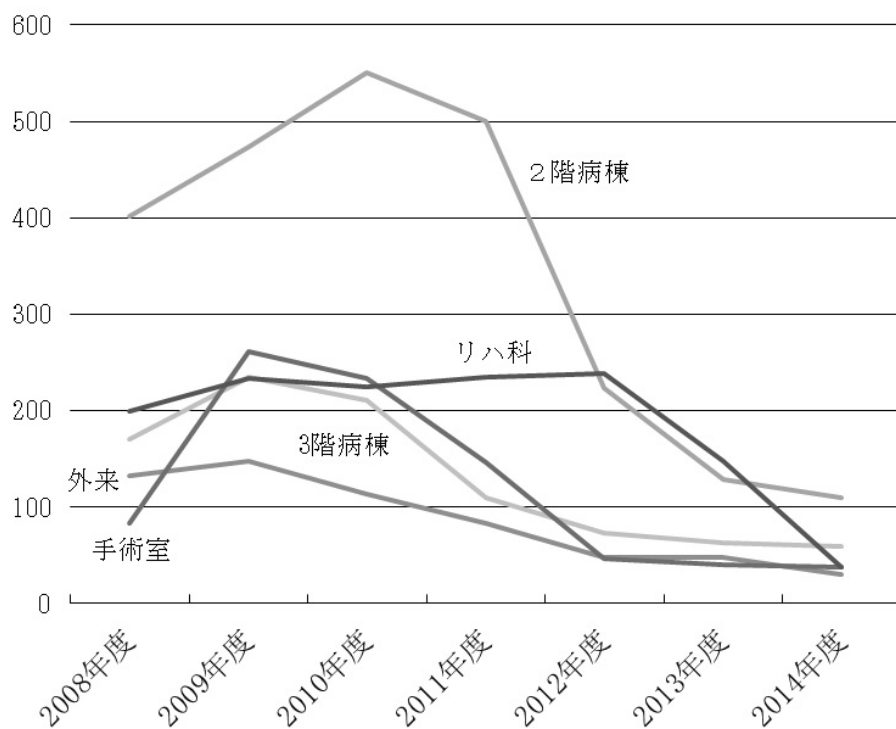
2014 年度のインシデントの総報告件数は 414 件であり、前年度より 35%減少した（左図）。



インシデントの影響度は、レベル 3b（濃厚な治療を要する（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術入院期間の延長、外来患者の入院、骨折等））以上はなく、レベル 3a（簡単な処置・治療を要する（消毒、湿布、皮膚縫合、鎮痛剤投与等））が 15 件、レベル 2（処置・治療は要しない（バイタルサインの軽度変化、観察強化、検査の必要性））が 16 件であった（左図）。

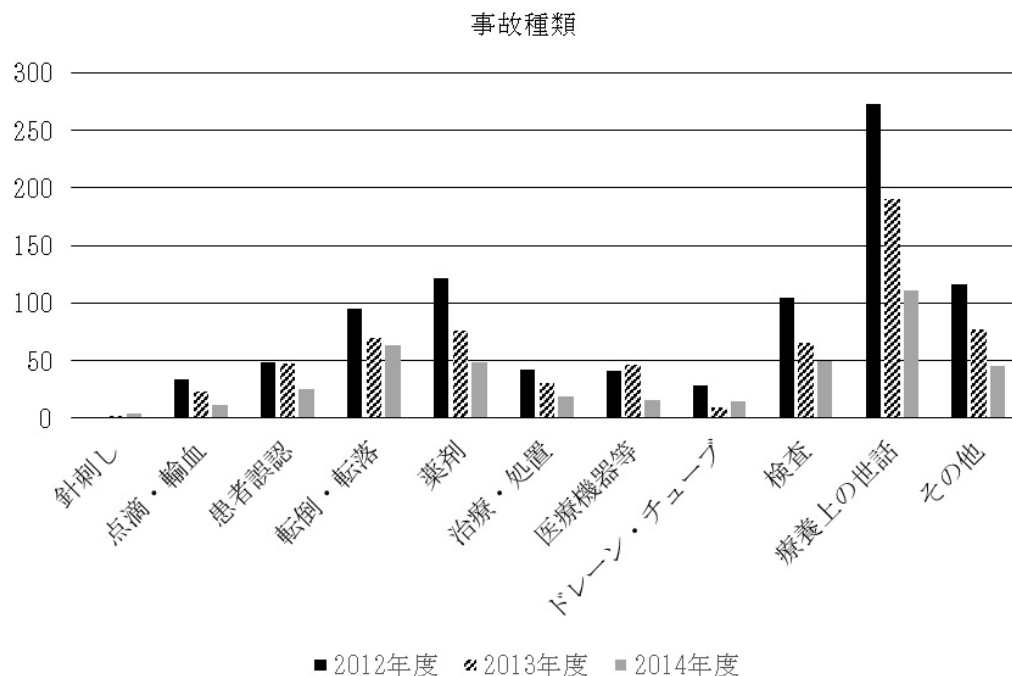
部署別報告数（発生・責任部署ではない）の推移を次表・図に示す。

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
医局	64	73	41	11	8	8	1
外来	132	147	113	83	48	47	30
2 階病棟	402	474	550	500	223	129	109
3 階病棟	170	235	210	109	73	63	59
手術室	83	261	233	146	46	40	37
薬剤科	41	57	68	40	71	53	26
リハ科	199	233	224	235	238	148	37
放射線科	48	56	57	37	33	26	15
臨床検査科	91	64	65	52	39	24	29
栄養科	169	213	154	49	49	28	28
医療事務課	48	127	116	72	35	34	23
地域医療連携室	35	28	22	11	11	16	8
診療情報管理室					16	22	9
その他	8	11	13	4	1	4	3





事故種類別では、2013 年度に比べ、「ドレーン・チューブ」の項目を除き、いずれも減少した（下図）。



教育

研修については、以下の通り行われた。

- 1) 医療ガス勉強会（酸素ボンベの扱い方）（4/25）
- 2) 医療安全勉強会（患者誤認防止）（1/30）
- 3) 医療ガス（酸素）・防災研修会（2/20）

○2015 年度の重点目標

2014 年度の目標として「各部署の委員がインシデント報告を頻繁に閲覧し、自部署のみならず他部署の報告にも目を通す機会を増やすようにすること」を掲げた。2015 年度も同じ目標を掲げる。

○2014 年度の委員会開催日

4/18、5/18、6/20、7/18、8/15、9/19、10/17、11/14、12/12、1/16、2/13、3/20（臨時開催なし）

○まとめ

とくに「患者誤認」、「薬剤」関連のインシデントがゼロになるよう努力する必要



感染対策委員会

○設置目的

- 1) 院内感染予防委員会の開催
- 2) 院内感染状況の把握と対策の検討、職員への周知
- 3) 院内感染の研修・教育
- 4) 感染者の統計処理
- 5) 感染性医療廃棄物の処理

○委員会構成

委員長、副委員長 2 名 委員 23 名

○2014 年度の活動報告

院内感染防止対策の実施 状況の把握 指導を行う。
一行為一手洗いの実施 手指衛生サーベイランス

1. 早朝申し送り時、入院患者感染患者の報告を行い全職員に周知し感染に対する意識を高めた。
2. 早朝申し送り時、感染流行情報など、感染委員長より伝達し院内感染蔓延防止に努めた。
3. 手指衛生サーベイランス 目標指数を掲げ 統計結果の掲示を行った。
4. マニュアルの改訂時、委員会で協議し、決定後、各部署へ周知を図った。

5. 勉強会

- ① 標準予防策について 5/18 講師 健栄製薬株式会社
 - ② エボラ出血熱について 木下院長 10/31
 - ・ 手指衛生について 外来スタッフ 椎原看護師 10/31
 - ・ ノロウイルスについて 病棟看護師 高司看護師、他 10/31
- 不参加者 400 字程度 レポート提出

6. 職員教育

- ・ 4 月 新入職員 標準予防策・職業予防感染策・針刺し事故について
- ・ 新人看護師 院内感染予防策・職業予防感染策・針刺し事故
- ・ 看護助手 院内感染予防策
- ・ 一行為一手洗い グリッターパグを使用して 7 月 全職員に周知徹底を行う。

7. 職員感染予防対策

- ・ インフルエンザ予防接種 全職員対象 11/12・11/13・11/14 日施行 接種率 99%
- ・ B 型ワクチン接種 新入看護師・看護助手・検査技師対象
- ・ 職員健康診断 5 月・11 月施行

8. 抗菌薬使用状況報告

抗菌薬使用状況統計(薬剤科)



褥瘡・栄養対策委員会

○設置目的

『褥瘡発生患者の原因分析を行ない、褥瘡発生予防を図る』

○委員構成

委員長・副委員長・委員 12 名

○2014 年度の活動報告

『褥瘡発生患者の原因分析を行い、褥瘡発生予防を図る』

1)褥瘡発生時に発生報告書を作成し情報を共有

毎週水曜日に形成外科医とともに褥瘡回診を行い、DESIGN-R での評価と処置方法の確認

褥瘡発生 22 名（当院発生 12 名 持込発生 10 名）

うち褥瘡治療目的入院 1 名

褥瘡推定発生率平均 1.83 人

発生部位：仙骨部 36% 殿部 27% 踵部 9% 背部 9% その他 18%

2)退院時・転帰時に転帰報告書を作成し、それを元に委員会で褥瘡発生の原因分析をすることで、改善点の検討を行った

3)車いす用クッションの検討・購入

○2015 年度の重点目標

『原因分析を行ない、褥瘡発生予防を図る』

1) 報告書の作成による情報の共有

2) 原因分析に基づく改善点の検討と現場へのフィードバックの徹底

3) 予防策の統一(マットの選択基準・スキンケアの統一・ポジショニングに対する意識の向上)

4) 処置の統一(ドレッシング剤の選択基準・治療薬の選択基準)

○2014 年度委員会開催日

毎月第 2 水曜日

○まとめ

当院発生事例をみると毎年仙骨部の褥創発生が多く見られる。発生事例の原因分析をみると、発生要因のひとつに姿勢の保持ができず除圧が不十分だったことが毎回あげられ、エアマット使用例でも発生事例がみられた。このことから、ポジショニング技術が課題のひとつと考えられた。今年は予防対策の徹底とケアの統一、技術の向上を図り、当院発生率ゼロを目指した取り組みをしていきたい。



サービス向上委員会

○設置目的

患者サービスに関する事項、サービス向上のための業務改善、効率化、環境美化および職員の服装マナーに関する事項を行うことを目的とする。

○委員構成

委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 16 名

○2014 年度の活動報告

- ①院内・環境ラウンドの実施
- ②広報活動
- ③「患者さんからのクレームの実態」勉強会→9 月実施
- ④リハビリカードの実施

○2014 年度の委員会開催日

4/18 5/16 6/20 7/18 8/22 9/19 10/17 11/21 12/12 1/16 2/13 3/13

○まとめ

昨年度は新たに病棟ラウンドが開始され、委員一丸となって取り組んだ。次年度もよりよい活気ある職場を目指して活動する。



教育委員会

○設置目的

医療事故防止教育、感染対策、医療倫理、および職員の質向上のための教育活動を行うことを目的とする。

○委員構成

委員長 1 名 副委員長 1 名 委員 19 名

○2014 年度活動報告

開催日	研修テーマ	
4 月 25 日	医療ガス安全・救急委員会 医療事故防止委員会	医療ガスの取り扱いに関する講習 AED の取り扱いに関する講習
5 月 23 日	感染対策委員会	手指衛生の重要性
6 月 13 日	倫理委員会	医療倫理について
8 月 1 日	NST 委員会	栄養管理の重要性と経管栄養
9 月 26 日	サービス向上委員会	トラブルの芽を摘む接遇力
10 月 31 日	感染対策委員会	医療関連感染症、エボラ出血熱について 感染予防対策の重要性
11 月 22 日	院内研究発表会	院内研究発表 明野クララ元気ツアー報告会
11 月 27 日	泌尿器疾患について	
2015 年 1 月 30 日	医療事故防止委員会	ヒューマンエラー 患者取り違えについて
2 月 20 日	医療ガス安全委員会	医療ガスの取り扱いに関する講習 防災防火安全対策

○2015 年度年度重点目標

部署枠を超えた全職員個人のスキルアップと共に、接遇や医療倫理感の向上が得られるような教育や研修を立案し運営する。

○2014 年度委員会開催日 毎月第 1 金曜日



○まとめ

昨年度も各委員会に依頼を行い、毎月各委員会企画の研修会を開催した。内容として医療ガスの取り扱いの基礎から、当時世界的に脅威となりつつあったエボラ出血熱に関する事等、多岐に渡った。研修会後のアンケート結果からも職員の職種を問わず有意義な内容であったと思う。毎年開催される院内研究発表会においては、参加部署の発表に加え、複数部署から構成される多職種チームからの発表も加わって、各演題について活発な意見交換が行われた。また泌尿器科疾患に関する理解を深めるため、東九州泌尿器科病院院長、原岡正志先生に御講演いただき、職員の知識向上に大いに寄与したと思う。2015 年度も職員のスキルアップと知識向上をめざし、研修会を企画していきたい。



NST（栄養サポートチーム）

○設置目的

入院患者一人一人に必要な栄養の質及び量の摂取（投与）方法について提案し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

○委員構成

医師 1名、管理栄養士 2名、薬剤師 1名、言語聴覚士 2名、看護師 5名

○2014年度の活動報告

- ・ 毎週水曜日 13：30～対象者のカンファレンス及び回診
（対象者）・SGA評価（B・C）の患者 ・摂食嚥下障害の患者 ・褥瘡患者
- ・ アルブミン値 3.0 未満の患者 ・食事摂取量低下の患者 ・大幅な体重減少の患者 ・輸液のみ投与の患者 ・前回様子見の患者

*NST介入延べ患者数 1506名／年 介入患者数 452名／年

*補助食品（高カロリージュース・高カロリーゼリー）摂取患者数 46名／年

・・・・・・49%が改善傾向にあった

*NSTの勉強会実施（8／1）

○2015年度の重点目標

- ・ 対象患者の抽出をスムーズに確実にを行い、その患者の栄養状態を少しでも向上させ早期退院や社会復帰を助ける
- ・ 対象患者に対して、適切な栄養管理が行われているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理が行えるように多職種で活動する
- ・ NST専門療法士取得（看護師）
- ・ NST専任薬剤師の複数配置

○2014年度の委員会の開催

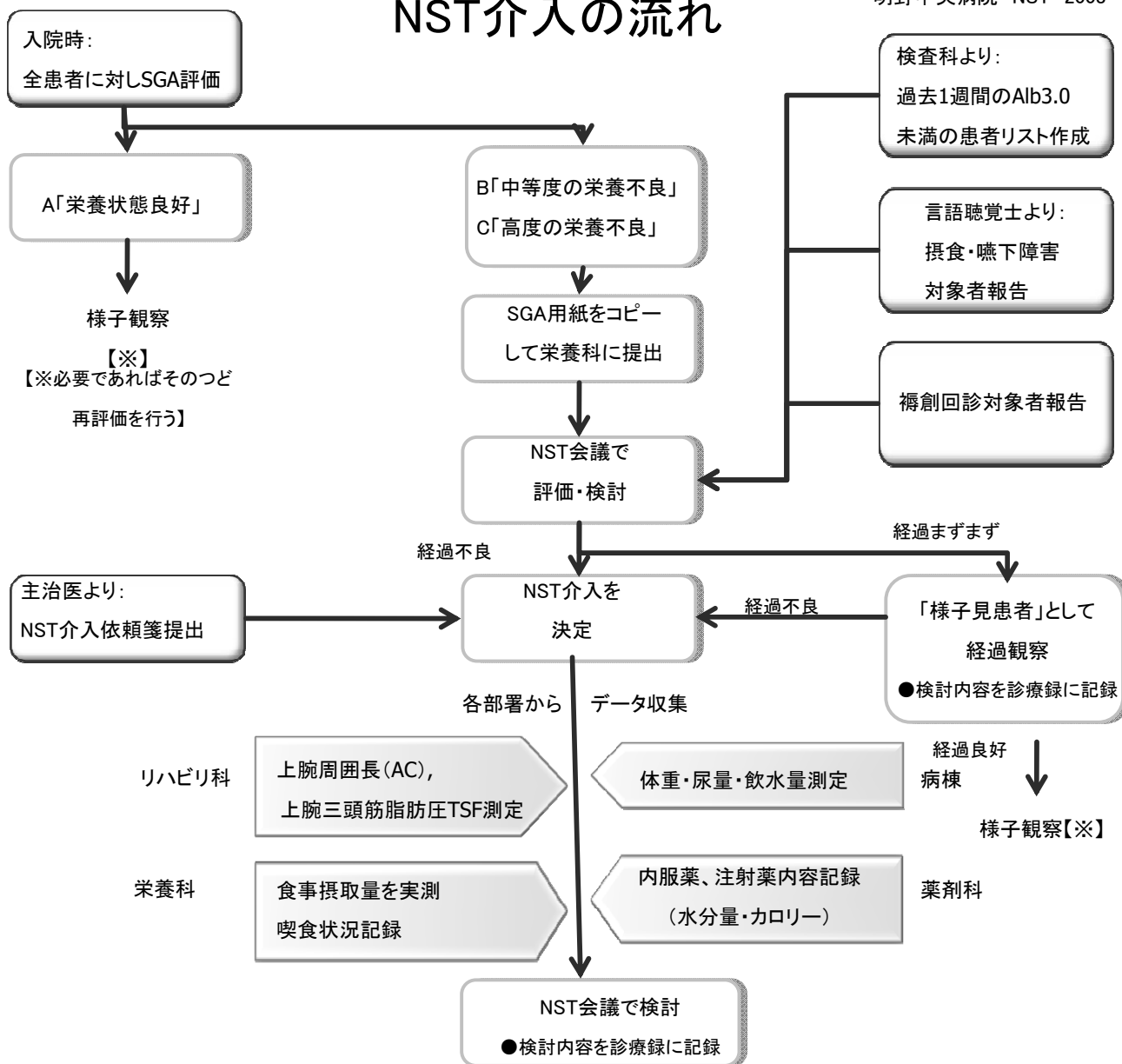
4／30 5／28 6／18 7／30 8／27 9／17 10／29 11／26 12／24 1／28 2／25 3／25

○まとめ

入院時、全患者に対して早期に栄養状態の把握を行い、栄養状態が不良の患者に対してNSTが介入し栄養状態の改善に努めた。

NST介入の流れ

明野中央病院 NST 2008



NST会議

毎週火曜日 14:00～

NSTメンバー

医師
病棟看護師
管理栄養士
言語聴覚士
薬剤師

対象

- ①NST介入患者
- ②様子見の患者
- ③摂食・嚥下障害対象者
- ④SGA評価B、Cの患者
- ⑤褥創回診対象者
- ⑥過去1週間のAlb3.0未満の患者



糖尿病相談会

○設置目的

糖尿病の治療にあたり、本疾患に対する患者自身とその家族における基本的な知識の理解及び普及を高める。

○委員構成

医師 1名、管理栄養士 1名、薬剤師 1名、理学療法士 2名、検査技師 1名、看護師 3名

○2014年度の活動報告

○ 第35回糖尿病相談会 テーマ 「コロッケ定食を試食」

開催日 2014年6月14日(土) 場所 管理棟第一会議室 参加人数: 8名

開催目的 人気メニューのコロッケの試食会を開催。味付けや材料の工夫で低カロリーでも美味しく、かつボリューム感のある食事にするができることを体験してもらう。同時に食事療法への関心を深めてもらう。

○ 第36回糖尿病相談会 テーマ 早め治療! 「糖尿病と腎障害」

開催日 2014年11月8日(土) 場所 管理棟第一会議室 参加人数 7名

開催目的 三大合併症の一つである腎症について理解し、血糖の正常化を目指す。

患者個々の病期ステージ(GFR)を示し病期ステージごとの注意点、食事内容について理解を深める。

○ 第37回糖尿病相談会 テーマ 糖尿病のい・ろ・は「糖尿病を基本からしっかり理解しよう」

開催日 2014年3月14日(土) 場所 管理棟第一会議室 参加人数 9名

開催目的 糖尿病とはどのような病気かまた合併症について理解してもらう。

糖尿病治療の中の食事療法の基本について

* 対象者はHbA1c 7%以上の患者

○2015年度の重点目標

- 糖尿病に対する基礎知識の理解及び普及
- 相談会の年3回以上の開催

○2014年度の委員会開催日

4/7 5/12 6/9 7/7 8/4 9/1 10/6 11/4 12/1 1/5 2/9
3/9

○まとめ

2014年度は糖尿病患者の教育入院及び糖尿病入院のパスの使用はなかった。

2015年度は糖尿病相談会開催を年間3回実施を目標とし、地域の糖尿病患者さんの治療の支援をしたい。



深部静脈血栓チーム

○概要

2012 年 10 月、医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、臨床検査技師からなる「静脈血栓塞栓症対策チーム」を組織し、ハイリスクの入院患者を対象に毎週回診を行いながら静脈血栓塞栓症対策に取り組んでいる。

○スタッフ構成

医師 1 名、看護部長、各病棟看護師・リハビリテーションスタッフ（数名）、臨床検査技師 1 名

○2014 年度の取り組みとその成果

4 月より全入院患者を対象として「静脈血栓塞栓症リスク評価・チェックリスト」によるスクリーニングを開始した。また、間欠的空気圧迫装置を 2 台追加購入し、予防対策の強化を図った。

回診患者数は 580 名（整形外科 477 名（本院術後：TKA 144 名、THA 43 名、大腿骨近位部骨折 54 名）、内科 103 名）、静脈超音波検査施行患者数 248 名、同検査施行数 385 件、深部静脈血栓新規検出患者数 46 名であった。回診対象患者のうち、深部静脈血栓の検出後、抗凝固療法の開始患者 2 名、下大静脈フィルタの挿入患者 2 名であった。

○学会発表

- ・第 32 回大分県病院学会（別府市）－平成 26 年 11 月 16 日－
阿蘇野泰幸、穴見尚樹、佐藤美津子、松本奈穂、鈴木京子、森正和、藤川陽祐、
中村英次郎：「静脈血栓塞栓症対策チームの現状と今後の課題」
- ・第 37 回大分県看護研究学会（大分市）－平成 27 年 2 月 7 日－
山本 唯、鈴木京子、今永美保、佐藤大輔：「術後肺血栓塞栓症 3 例の検討」

○2015 年度の目標

- 1) 入院時のリスク評価を正確に行う
- 2) 有効かつ無駄のない予防策を確立する
- 3) 予防策の変更・中止の判断を遅滞なく行う

○まとめ

発足からの 3 年を総括しながら、より効率的な静脈血栓塞栓症対策を確立していく必要がある。

禁煙サポートチーム

禁煙サポートチーム
地域医療連携室
佐藤 善紀

2013 年 7 月よりスタートした禁煙サポートチームですが、今年度までの介入総数 51 名のうち、退院後 1 ヶ月間禁煙を継続した患者さんは 28 名（成功率 55%）、2 ヶ月間継続された方は 24 名（成功率 47%）、3 ヶ月継続した方は 21 名（成功率 41%）であった。治療薬を使用しない禁煙の取り組みとしては高い効果を上げているこの取り組みを、平成 26 年 7 月に仙台で行われた日本臨床整形外科学術学会にて研究発表として行い、会場から高い評価を得たことは、チームにとって大変うれしい出来事であった。しかし、5 月の中間まとめで 57%であった 3 ヶ月成功率が、人数が増え、月を経過するごとに少しずつ低下している現状もあることから、次年度はより成功率が向上するよう、対象の方のモチベーションが維持できるような取り組みを検討していきたい。

	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
総介入数	51	51	51
経過数	48	45	43
成功	28	24	21
失敗	17	18	19
不明	3	3	3
成功率	55%	47%	41%



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入院患者総数	117	136	131	142	134	143	133	125	126	126	119	141
喫煙者数	4	3	8	0	8	0	2	3	4	1	6	3
介入数	3	3	7	0	1	0	1	2	2	1	4	3
喫煙率	3.4%	2.2%	6.1%	0.0%	6.0%	0.0%	1.5%	2.4%	3.2%	0.8%	5.0%	2.1%
介入率	75.0%	100.0%	87.5%	0.0%	12.5%	0.0%	50.0%	66.7%	50.0%	100.0%	66.7%	100.0%



親和会（厚生会）

○設置目的

親和会は会員同士の親睦会の向上と福祉の充実を図ると共に、明野中央病院の発展に寄与する事を目的とする。

○親和会スタッフ構成

・会長 1 名 ・副会長 2 名 ・会計 1 名 ・会計監査 1 名 ・役員 11 名

○総会

- ・総会は通常総会と臨時総会の 2 種類とする。
- ・通常総会は、毎年 3 月末に病院総会に合わせて行われる。
- ・臨時総会は、会長が必要を認めた時、または会員 3 分の 1 以上の要求があった時、随時開催する。
- ・議長は会長が行う。
- ・総会は会員の過半数をもって成立する。ただし、委任状出席を認めるとする。

○会計

- ・収入 ①会費 ②寄付金 ③その他（必要に応じて臨時会費を徴収することもある。）
- ・支出 ①職員旅行 ②レクレーション活動 ③忘年会 ④慶弔見舞金 ⑤その他
- ・会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。
- ・会計報告は毎年 3 月の通常総会にて行う。

○2014 年度活動報告

①院内ボーリング大会

開 催 日：2014 年 6 月 20 日

開催場所：OBS ボール

参加人数：68 名

懇 親 会：木の花ガルデン

参加人数：68 名

②第 1 回院内ソフトバレーボール大会

実 施 日：2014 年 10 月 10 日

開催場所：新日鉄体育館

参加人数：55 名



③忘年会

開催日：2014年12月19日

開催場所：あけのアクロスホール

参加人数：122名



ボーリング大会（OBSボール）



ソフトバレー大会（新日鐵）

新聞報道

親子で 看護師国家試験合格

明野中央病院 赤星明美さん・芙優野さん親子



赤星 明美さん・芙優野さん親子

大分東明高校の看護科を卒業し、親子で看護師国家試験に合格し大変喜んでいました。

赤星明美さん(45才)は明野中央病院に9年前より准看護師として勤務していましたが、2年前より看護師を目指し、通信教育(別府大学)で学び、見事看護師国家試験に合格しました。また、長女の芙優野さんは

先は違いますが、お互いに看護師として地域のた

めに頑張りますと笑顔で話していた。

立しながら頑張っていたが、途中でくじけそうになる事もあり、同じ受験生である芙優野さんから教わりながら努力を続けた事で見事親子で看護師国家試験に合格しました。

赤星さん親子は勤務

明野タイムズ

明野東校区自治会 防災訓練を兼ねた スポーツレクリエーション

明野東校区自治会は3月9日防災訓練を兼ねたスポーツレクリエーションを明野東小学校体育館で約170名が参加して行った。



救命救急法の説明をする森先生

防災訓練では、明野中央病院の中村英次郎副院長や看護師と理学療法士等12名が参加し、AEDの使い方や人形を使った救命法の講習会とスポーツレクリエーション大会では、子ども

明野タイムズ

明野中央病院一日看護師体験

五月十日、明野中央病院にて明野中学校の生徒十名による一日看護師体験が行われた。ナイチンゲールの誕生日の前後一週間が看護週間ということにちなみ、同病院が毎年企画している。生徒の皆さんは実際に患者さんに接して足浴を行っ



たり、AEDの使い方を学んだりした。今回参加した生徒の一人である詫摩里沙さんは「今まで病院に関わったことがあまり無かったので、今回の体験で看護師の皆さんは患者さんに細かく気を配っていることが分かりました。これか

ら身近な人に何かあったときに、迅速な対応ができる人間になりたいと思います」と語った。また、二十三日には大分県看護協会主催の「ふれあい看護師体験」が同病院で行われ、大分舞鶴高校の生徒六名が血圧測定をしたり車椅子を体験した。



大分団地新聞

看護の日

▽明野中央病院 10日、大分市明野東の同病院で、明野中学校の3年生10人が一日看護体験をした。(写真上)

木下昭生院長が「看護師の一言で患者が元気になることもある。有意義な体験にして」とたすきと委嘱状を手渡した。生徒はAED(自動体外式除細動器)での救命法や入院患者のケアを学んだ。患者の足浴をした新納岬さん(14)は「患者さんの喜ぶ姿にやりがいを感じた」と話していた。



大分合同新聞

明野中学3年生 明野中央病院で 一日体験学習

AEDの使い方説明



明野中学校の3年生は明野中央病院で一日看護師体験学習を行った。

一日看護師体験学習には、明野中学校の3年生の女子生徒10名が参加し、木下昭生院長の委嘱の後、病院内で患者さんの血圧測定や、足・手洗いと爪切り、またシーツ交換、事務棟で森先生の指導でAEDの使い方や心臓マッサージの体験学習も行われた。また午後には手術室の見学やリハビリ体験も行われた。

体験学習を終えた生徒は「病院内では、医師、看護師、薬剤師、栄養士の方々が協力し合いながら患者さんの為に全力で働いている事がよく分かりました」と話し、他の生徒は「家族に80歳の祖父がいます。今日体験した手足洗いや爪切りをしてあげたいです」と言っていた。

明野タイムズ

明野中央病院 職場体験学習



九月十八日と十九日の二日間、大東中学校の職場体験学習で、八名の生徒が明野中央病院で看護体験をした。十八日は車椅子やストレッチャーの体験、ベッドのシーツ交換などを行った。十九日は薬剤科などの体験を行った。

大分団地新聞





明野中央病院
中村英次郎ジャズグループが明野80℃で
ジャズとワインとチーズコンサート開催

『ジャズとワインとチーズコンサート』では中村英次郎ジャズグループの6名が「思い出のサンフランシスコ」「昔は良かったね」「A列車で行こう」や、ジャズでおなじみのスタンダードナンバー等約10曲を生演奏で披露し、会場から惜しめない拍手が送られていた。

このジャズコンサートのかつかけは、さつき町の湯田国男さんが明野中央病院の中村英次郎副院長に相談し、中村副



吉川好枝さんから
中村英次郎代表に花束贈呈

院長が「私たちのジャズグループで良かったら」と返事を頂き、5月17日に明野80℃で開催された。

会場には明野地区から沢山の方々が参加し、中村英次郎ジャズグループの生演奏に聞き惚れていた。

また明野地区自治会連合の元会長の古川慶悟さんの奥様、古川好枝さん親子が中村英次郎代表に花束を送り、会場盛り上げた。

明野タイムズ



大東中学校
明野中央病院で体験学習

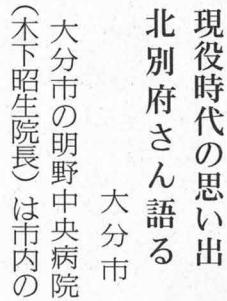
大東中学校（江藤郁校長）の2年生8名が9月18日と19日の2日間、明野中央病院で職場体験学習を行った。

一日目の18日は、血圧測定、シート交換、手洗い・足洗い、患者さんに乗せて車いす輸送の体験を行った。

二日目の19日は、リハビリテーション室で佐々木信弘課長が、「リハビリの必要な患者さんに専門的な治療や訓練を行うことによって、できる限り機能を取り戻すようリハビリをしていきます」と説明し、患者さんに合わせて機能に合ったボリゾンタルレックプレス、トースフレクション、また電圧で体内に刺激を与えて治療する干渉波の器具の体験学習をした。

その後オペ室、薬剤室、レントゲン室等を見学し、病院の患者さんの為に少しでも早く病気が治るように使われるいろいろなリハビリ器具や病気の早期発見する検査室、また病気に合った適切な手術をする手術室等の見学をし、地域社会になくてはならない病院ということを再確認しましたと生徒達は話していた。

明野タイムズ



健康づくりや、現役時代の思い出について話す北別府さん

校野球部2年の東聖也君(17)は『補欠で高校3年間過ごすことは常にレギュラーでいることより立派なことだ』という言葉に感動した」と話していた。

あけのアクロスタウンで、元プロ野球選手の北別府孝さん(57)を招いた健康セミナーを開いた。

北別府さんは1975年に広島東洋カープに入団。正確なコントロールから「精密機械」の異名を持ち、カープ黄金期を築いた。現在は野球解説などでテレビやラジオに出演している。

約450人が参加。北別府さんは現役時代は暴飲暴食気味だったが「今は朝食代わりに多めの水を取るようになっており、おかげで体の調子がいい」という。現役時代の思い出や印象に残った試合について語ると、参加者は目を輝かせて聞き入っていた。

カープファンの増尾冬里さん(22)「市内鶴崎」はユニホームを着て来場。「北別府さんの少年時代の話が面白かった」。鶴崎工業高

明野
明野中央病院新春寄席
 一月十七日、明野中央病院リハビリテーション室にて新春寄席が開催された。主催は明野中央病院。県南落語組合の囃家である森田洋さん、中山和さん、井上博文さんが、招かれ、「時そば」「幾代餅」など人情と笑いにあふれた落語を披露した。観客席は患者さんと地域住民の皆さんで満席となり、会場は大きな笑い声と拍手に包まれた。

- 84 -



新入職員 1 年間を振り返って

○診療診療情報管理室 医療クラーク 大山紫帆里

この1年を振り返ってみると、初めは患者さんへの対応の仕方などが分からず不安な気持ちが強かったのですが、先輩方に仕事の流れ、患者さんへの声掛けなどを教えてもらい、患者さんへの質問にも少しずつ答えられるようになり、自信もつきました。学生の際は特には気付くことはなかったのですが、社会人になり仕事に対して責任を持つ中で、患者さんからの「ありがとう」や職員の方々の「頑張ってるね」など、会話の何気ない言葉に支えられることが多い事に気づきました。今は患者さんから感謝の言葉を掛けて頂いたとき自分の仕事のやりがいを感じます。まだまだ分からないことがあり、職場の皆さんには仕事だけではなく社会人としての心得を教えてもらおう日々ですが、心の余裕もでき成長できたと感じています。この1年、笑顔と丁寧な対応は忘れず心がけてきました。これからも初心を忘れず、どんな場面でも落ち着いて対応できるように経験を積み重ねていきたいです。

○リハビリテーション科 理学療法士 堀優吾

入職時は、4月から11月末日まで回復期病棟に勤務させていただきました。回復期病棟では、退院後の自宅生活を見据えたリハビリテーションの提供、御家族、多職種との情報共有を密に行うことが重要であることを学びました。12月から3月末日までは2Fの地域包括ケア病棟に勤務させていただきました。地域包括ケア病棟では在宅復帰を前提とするので、回復期病棟同様に退院後の生活を見据えてリハビリテーションを行わなければいけません。それに加え、術後早期の急性期患者さんが多いためリスク管理など学ぶことが多かったです。さらに当日離床にも参加させて頂き、術直後の患者さんが何を感じて、どうしてほしいと考えているのかを理解することができました。この1年間で急性期・地域包括ケア病棟・回復期を経験させていただきました。今後は、1年間の経験を活かして早期の在宅復帰に向けたリハビリテーションの提供に努めたいと思います。

○リハビリテーション科 理学療法士 後藤大地

私は今年一年を振り返って一番印象に残ることは、上長や他部門の方に様々な指導をしてもらったことです。初めて社会人となり、また一年目として無知であったが、臨床でのリハビリや患者さんに対しての対応方法など今まで学校では学べない多くのことを指導していただきました。リハビリに関しては多疾患の患者さんを担当させていただく機会を頂き、様々な疾患について学ぶことができました。また疾患別に上長や先輩方にリハビリの指導をしていただき臨床で多くの経験を学ぶことができました。患者さんに対しての対応方法としても、認知がある方などは、その方を尊重し、自尊心を傷つけないように対応していくなど、リハビリ以外での事も学ぶことができました。一年間での反省点としては、上長や先生方に報告や確認がおろそかになっていたと思う点です。患者さんの情報をパソコン入力や、上長や先生方に確認不足で指導をしていただきました。確認や報告不足になることで仕事場だけでなく患者さん自体も迷惑を被る事になるので、今後は働く上で確認、報告を行なうように日々考えて行動し、分からない際は上長や先輩方に相談してミスを減らしていくようにしていきたいです。



○リハビリテーション科 作業療法士 清原貴明

回復期リハビリテーション病棟で一年間勤務し、とても自分にとって作業療法士としていろいろ学ぶことができた年でした。初めの半年間は仕事の内容を覚える、慣れる、患者さんとの接し方を考えるなどのことで精一杯でしたが、徐々に慣れてきて、今では患者さんに提供するリハビリテーションについて試行錯誤しいろいろ考えているところです。特に、この一年間で勉強になったことは患者さんを自宅へ退院させる場合、何が一番必要でどこにアプローチしていくかなど考えることができたと思います。身体機能から自宅内の環境、動線、性格など色々な要素を含め想像、提案する。また、リハビリ室という限られた空間で提供する難しさ、その対象者の生活様式を理解する事に苦労しましたが、改めて作業療法士としてのやりがいを感じています。まだまだ力不足ではありますが、今後はもっと自宅に目を向けたリハビリテーションを提供していきたいと感じています。

○看護部 手術室 看護師 佐藤嘉一

1年を振り返ると、目まぐるしく仕事に勉強に追われていた日々でした。手術室では初めて見たり、学んだりした事が多く、今後自分もやっていけるか不安と緊張で一杯でした。また、病棟では患者さんと接することでその方に合った関わり、援助方法、その方に何が1番大切なのか考え行動していく事の難しさなどを感じ、自分の課題であると思いました。仕事を行っていく中で上手くいかないことが沢山あり、自分は看護師に向いているのかと考える事もありましたが、プリセプターや師長、先輩、同僚が親身に相談に乗って下り、温かい指導や励ましがあがり、直接介助ができる手術が少しだけ増え、病棟では患者さんの個別的看護が徐々に行えているのではないかと考えています。これからも勉強して知識・技術を身につけ、手術がスムーズに行えるように、患者さんに対し個別性のある看護を提供していきたいです。

入職5年を振り返って

○地域医療連携室 佐藤善紀

私が入職した5年前の2010年、ドラマの視聴率ランキング1位はNHKの大河ドラマ『龍馬伝』、2位は同じくNHKの『ゲゲゲの女房』でした。この『ゲゲゲ』の主題歌、いきものがかりの『ありがとう』という曲を、当時の上司であったFセンター長がその年の忘年会でどうしても歌いたいと言って聞かず、夜な夜なギターでの伴奏を練習して、一緒にステージに上がった楽しい思い出があります。明るく、厳しく、熱意のある楽しい上司でした。5年後の今、自分が役職に付き、責任ある立場で部署を預かって初めて気付くことも多く、当時の生意気な自分、今の至らない自分を反省しながら、Fセンター長にはあらためて「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたい思いでいます。「まず、患者さんの話をよく聞きよ」と教えられた相談員としての基本姿勢を忘れずに、これからも退院する患者さんが困らないよう、お手伝いしていきたいと思っています。



○診療情報管理室 医療クラーク 奈良麻美

大学3年生の時に授業の講師が木下院長先生だったことが私と明野中央病院の出会いでした。当時は黒板に書かれた先生の字が解読できず、テストは非常に難しく、ギリギリで単位を取得した事を覚えています。大学卒業後、当院へ就職し現在では大体の文字が解読出来るようになりました。麻酔等の分析機器の技術者で世界中を飛び回っている父に憧れ医療の世界に飛び込んだものの、知識も全く無い状態からのスタートで日々勉強に没頭しました。入職当時は今では考えられませんが、人見知りで無口で医療用語が全くわからず、先生方はじめ沢山の人に迷惑を掛けてきました。周りの職員の皆様のご指導のおかげで1年目には新人賞をいただくことができ、無事5年を経過することができました。今後も初心を忘れず頑張りたいと思います。ちなみに、今なら院長先生のテスト全問正解できる自信があります！

○リハビリテーション科 理学療法士 穴見尚樹

今回、改めて5年間を振り返り、自分が成長できた部分と今後の課題を考えてみました。社会人としても理学療法士としても何も分からなかった1年目。仕事に慣れ、少しずつやりたいことが見えてきた2年目。勉強会や学会発表の機会に恵まれた3年目。中堅の立場を意識し始めた4年目。周りをまとめる機会が多くなった5年目。このような経験を経て成長できたと思う部分は、多角的に現実味をもって物事を捉えようと意識するようになったことです。患者さんの障害に対して、その方の identity や背景を考慮し、全体像を捉えていくことの重要性を感じることができました。今後の課題は、自己研磨です。後輩の勢いや考え方に感化させられる反面、焦りを感じる事もあり、自分の知識や技術の見直しが必要だと思います。また、先に頭で考え込み、行動力に欠けることがあるため、判断と決断から行動に移せるよう努めていきたいと思っています。

○リハビリテーション科 理学療法士 重村恵

明野中央病院入職から5年経ち、急性期病棟・回復期病棟での勤務経験をさせて頂き知識や技術のみならず患者さんの抱く思いや関わり方など学ばせて頂きました。同じ疾患でも症状や生活環境などさまざまです。そのため患者さん一人一人に応じたリハビリテーションの提供が必要になると改めて感じる事が出来ました。現在は訪問リハビリも担当し、訓練機器の無い実際の生活場面でのリハビリの難しさを痛感しています。しかし、患者さんやご家族の希望を直に感じる事ができ、貴重な経験をさせて頂いていることに深く感謝をしています。Rehabilitation(リハビリテーション)とはre(再び、戻す)とhabilis(適した、ふさわしい)から成り立っています。機能回復はもちろんですが、自分らしく生きることに関わりが深く関わっているとも言われています。これからも患者さんがより良い人生を送ることができるように理学療法士として最善を尽くしたいと思います。



○リハビリテーション科 作業療法士 古谷辰徳

早いもので、今回この文章を書くにあたり、私が明野中央病院に入社してもう5年の歳月が経った事に改めて驚きを感じています。思い起こすと入社時は右も左も分からない新人で、毎日が緊張の日々であり、最初は先輩方の見学や業務の雑務をしながら少しずつ研修を積み重ねていました。その後しばらくして回復期病棟へ配属され、患者さんを担当してからは本当にあっという間の1年でした。そしていつの間にか毎年後輩が少しずつ増え、段々と後輩の育成や先輩の業務の引き継ぎをしていき、合間で研修会等に参加しての自己研鑽という具合に、日々少しずつ業務が増え、幾分成長してきたかなと思ったのも束の間、今度は急性期病棟へ配属が決まり、新たな生活が始まりました。そこでは今まで接していなかった肩や腕を骨折した患者さんや、術後間もない患者さん、そして初めての外来の患者さんとのリハビリテーションの毎日となりました。それから日々急性期で新たな経験を積み、また回復期へ戻り落ち着いた頃、この度再開した訪問看護ステーションへ所属することとなりました。今後も日々一歩ずつでも前進していき、患者さんの満足度の高い、地域に根差した質の高いリハビリテーションを提供していけるように精進していききたいと思います。

○看護部 2階病棟 看護師 久保紀美

明野中央病院に就職し、早くも5年が経ちました。入職当初は若さのみで突っ走ってきましたが、現在は副主任を務めるまで成長できました。これは上司や同僚といった良い仲間巡りに出会ったからだと感じており、とても感謝しています。この5年間の1番の思い出は明野クララ元気ツアーでスイスに行ったことです。第1回目ということもあり、成功させなければならないという緊張やプレッシャーも感じていましたが、気合と根性、そして職場の方々の協力、参加者の力や藤川先生のサポートにより成功することができました。そして今後は、副主任としての責任と自覚を持ち、患者さんへの看護はもちろん、後輩の教育関連に対しても力を入れ、看護職員の看護師モデルとしてリーダーシップを発揮できる看護師を目指し、努力していききたいと思います。

○看護部 2階病棟 看護師 小山環

明野中央病院に入職し5年が経ちました。あっという間の5年間だったように思います。入職直後は、久しぶりの病院での勤務という事と、初めての外来勤務という事が重なり、分からない事、戸惑う事が多く、まわりのスタッフの方々に迷惑をかける事が多い毎日でした。しかし、看護部をはじめ、様々な部署の方々の指導、助言を頂き何とか仕事に慣れていくことができました。その後、病棟勤務に変わりましたが、それでもまわりのスタッフの方々に助けられる日々だったように思います。5年が経ち、指導を受けていた立場から指導をする立場に変わってきましたが、今後も初心を忘れず頑張っていきたいと思っています。



○看護部 2階病棟 看護助手 丸崎利子

明野中央病院に入職し、看護助手として5年が経ちました。私は、病院勤務が初めてで看護助手が何の仕事をするのか、患者さんにどう接していいのかも分かりませんでした。看護師さんや、先輩看護助手に迷惑を掛けながら仕事を教わり、この5年間で2階病棟、中材、3階病棟と経験し、勤務年数が経つにつれて今度は教える立場になり、プレッシャーや自分の実力のなさに心が折れ、辞めようと思った事もありました。でもある看護師さんが、親身になって私の事を心配してくれてとても励ましてくれました。患者さんにも、些細な事でありがとうって言われることがとてもうれしく、時には励まされることもあり、この看護助手という仕事をして良かったと思えることもたくさんあります。私にとってこの5年間は、とてもいろいろな経験をした5年でした。これからも感謝の気持ちを忘れず頼られ信頼される看護助手になれるよう頑張りたいと思います。

○看護部 外来 看護師 椎原つばみ

転居を機に当院に入職し5年が過ぎました。経験のない中央材料室・手術室に配属され私に務まるのかと不安でいっぱいでした。手術室において器械出し看護師は、多くの器械の名前と使用目的を覚える必要があります。次に手術の流れを把握し予測する力と状況判断が必要となります。手術室という緊張感のある空間における職員間のコミュニケーション能力と長時間の手術に対応できる体力を求められます。一方、外回り看護師は患者さんが入室してから退室するまで寄り添った看護を行います。麻酔の介助や術中に必要な医療機器の準備など、患者さんを中心として執刀医・麻酔医にも目を配らなければなりません。手術室看護は閉鎖空間だけに、他部署に認知されにくい現状ではありますが、特殊な知識や技術が必要とされていることを知っていただきたいと思います。また、外来と兼務する中で学習を重ね、昨年リウマチケア看護師を取得しました。今年から外来に異動となりましたので、今後はより専門性を求められると思います。看護師になって20年、病気で仕事ができない時期もありました。それでも、医師や周囲のスタッフ、家族に支えられて現在の私があります。今後も私だからできることを大切に、患者さんや家族が安心して生活できる環境を整え、笑顔を絶やさず頑張って看護師を続けていきたいです。

○医療事務課 首藤佳奈

入職して早5年が経過しました。短大を卒業後10年間勤務した病院を退職し医療事務という職を一度離れようと考えていましたが、縁があり明野中央病院に入職することになりました。私は、はじめ産休要員として1年という契約で入職しました。入職当初は、日々忙しく、仕事を覚える事で精一杯で、とにかく1年間しっかり職務を全うしようという思いで一生懸命だったのを思い出します。その後、正社員にというお話をいただき現在に至るのですが、以前勤務していた病院とは規模が違い、受付では患者さんの顔と名前を覚えるのは容易ではなく、外来では日々色々な事が起こるため、戸惑ってしまう事が多々ありましたが、先輩や周りのスタッフに丁寧な指導とサポートをしていただいたおかげで挫折の事なく頑張ってくることができました。今年度から自賠責と労災請求という新たな業務に就く事になりました。外来・入院請求とは全く違い、診断書や明細書の作成を行わなければならない、また新たに学ぶ事ばかりです。今後も日々いろいろ吸収し、自分自身成長できていければと思います。



○医療事務課 白井良平

明野中央病院に入職して5年経ち、最初は仕事を覚える事に精一杯で、患者さんへの配慮ができておらず、また知識不足のため患者さんからの質問に上手く答えられず、患者さんや先輩方、他部署の方々に迷惑をかけていました。徐々に環境にも慣れ、多くの事を学び、迷惑をかけながらも資格取得にも挑戦できた事は、大変でしたが自分にとっても有意義な5年間だったと思います。今後入院事務へと担当が変わり、また新しい事に取り組むことができ、患者さんに質問されてもスムーズに返答ができるようにしていきたいです。今まで学んだ知識、新しく学ぶ知識をどう活かしていくかがとても重要であり、今の自分に驕る事無く日々精進していけたらと思っています。

入職 10 年を振り返って

○薬剤科 薬剤師 片島尚子

私がここ明野中央病院に勤務し始めてからもう10年以上が経過したということで、時の流れの早さに驚いています。ここに入職したのは大学を卒業後すぐでした。右も左も分からず緊張していた私に、同じ部署の先輩はもちろん、他部署のスタッフも丁寧にたくさんのことを教えてくれました。そのおかげで新しい知識や技術を得る楽しさを知ることができました。精神的にあるいは体力的に辛い時期もありましたが、周りのスタッフの支えにより乗り越えることができました。また、プライベートでは結婚、出産と環境が変わり、現在は仕事とともに育児や家事に振り回されています。そんな私を周りの方々があたたかくサポートしてくれることに本当に感謝しており、そのおかげで仕事を続けていられるのだと嬉しく思っています。まだまだ周りにお世話になりっぱなしの私ですが、患者さん一人ひとりに寄り添う治療に貢献したいという初心を忘れることなく、日々精進していきたいと思っています。

○看護部 3階病棟 看護師 中畑弥生

明野中央病院に入職して、早いもので10年が経ちました。急性期病棟での勤務の後、現在は回復期リハビリテーション病棟で患者さんの在宅復帰に向けて看護や援助を行っています。私自身人見知りの性格であり、入職当初は他職種の方とどう関わっていいのか戸惑うことばかりでした。しかし、他職種の方と患者さんの話をすることで共通の話ができ、患者さんの情報を共有し日々の看護、援助に繋げる事ができました。他職種の方とカンファレンスを持ち同じ目標に向って介助を行う上で患者さんが少しずつ回復し、在宅復帰に向けて色々なことができるようになった姿を見ることが自分のことのようにうれしく思い、今の私の喜びでもあります。日々頑張っている患者さんに関わっていくと自然に笑顔があふれてきます。これからも患者さんと向き合い、思いを汲み取り、他職種の方と同じ目標に向い、患者さんが1日でも早く在宅復帰ができるように援助して行きたいと思っています。



入職 15 年を振り返って

○看護部 2階病棟 看護助手 小川みどり

明野中央病院に勤めて、早いもので 15 年が過ぎました。始めは、病院と業務に慣れることで精一杯でした。看護師、リハビリスタッフに色々な知識と技術を習い、手術後の患者さんや、内科疾患のある患者さんの介助ができるようになり、元気に退院していく患者さんの笑顔に自分自身も元気付けられている事に気付きました。リピーター患者さんからの「あんたがいて良かった、お願いよ」その言葉に働く喜びを感じ、患者さんが快適な入院生活を過ごせるように心掛けようと思っています。15 年の間に 3 人の子供も結婚し、5 人の孫にも恵まれ、平凡な生活を送ることができています。明野中央病院で働けたから今の生活があり、感謝の気持ちでいっぱいです。定年まであと少し、頑張らせて下さい。



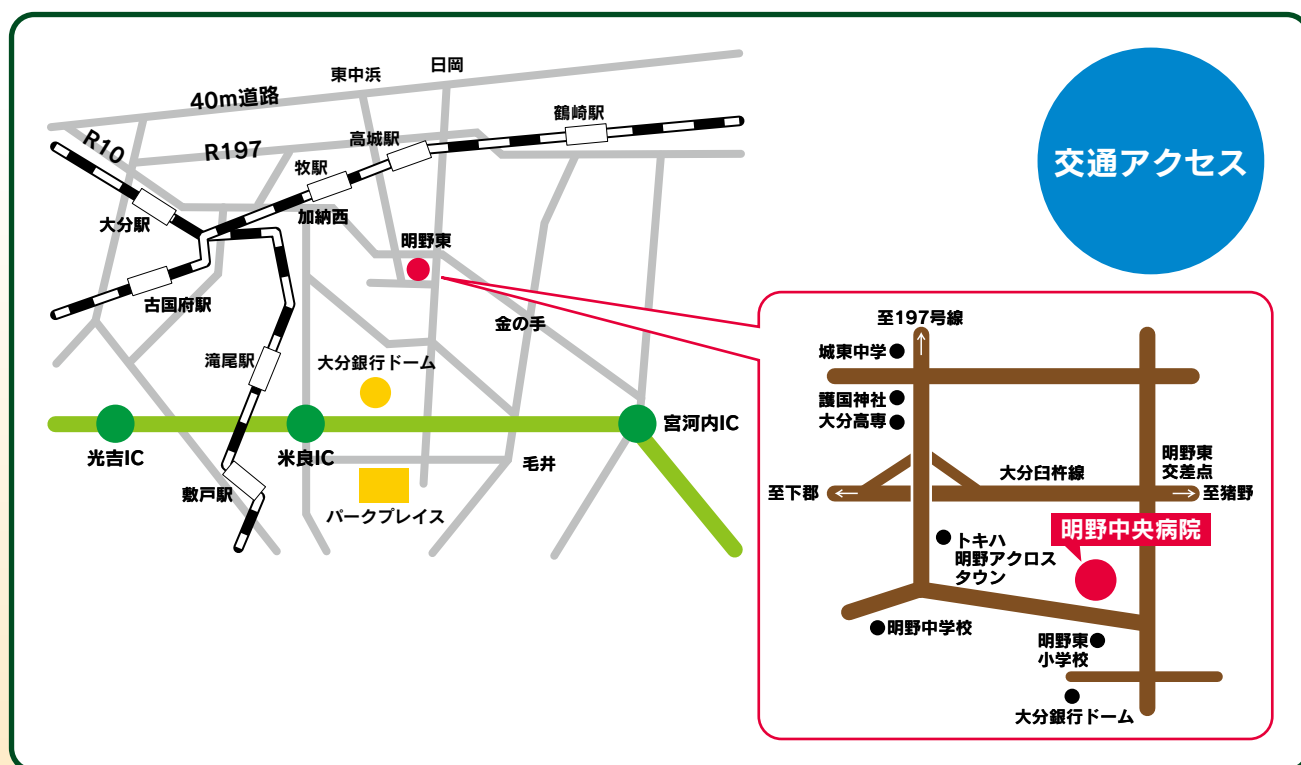
医療法人社団唱和会 明野中央病院

事業報告書（2014年度）

2015年10月1日発行

発行／医療法人社団唱和会 明野中央病院

編集／医療法人社団唱和会 明野中央病院 事務部総務課



医療法人社団唱和会 **明野中央病院**

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号

TEL (097)558-3211 FAX (097)558-3709

E-mail: akenohp@fat.coara.or.jp

<http://www.akenohp.jp/>